

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村(12年目)

1 事業概要

参加した大学生は、最初の2日間でリーダーシップや子どもへの接し方、集団作りの技法、伝承文化について学んだ。後半の日程では、小学生が参加する「子どもむかし生活体験村」の企画・運営を担当した。4日間、小学生とともに過ごす中で、リーダーとしての資質を身に付けるとともに、活動を通して伝承文化を小学生に伝えた。



2 事業の目的(ねらい)

地域を大切に、地域に根ざして活動するリーダーが求められている中で、愛媛の伝承文化を学び、先人の知恵と自然体験の融合した体験活動をすることで、地域を大切にしようとする心を育むとともに、「子どもむかし生活体験村」を自ら計画し、運営することで、地域に根ざして活動しようとするリーダーを養成する。

3 企画・運営のポイント

本事業は当所でのこれまでの体験活動が自然体験活動中心であったことや、日本では自然と生活文化が一体化していると思われること、日本の伝承文化を理解し、それを継承していこうとする意識が希薄化していること等から、自然と文化の融合体験及び地域に根ざして活動するリーダーを養成することを目的として、平成19年度より国立大学法人愛媛大学との共催事業として始まり、平成25年度からは法人ボランティア養成事業として実施している。回数を重ねる中で伝承文化のテーマを変更したり、日程を変更したり、事業の質を高めるべく改革を行ってきた。

大学生参加者を3つの区分に分け、初年度の参加となる通常クラス、2回目の参加となる上級クラス、3回目以上の参加となるアドバンスクラスを設けている。これは参加回数に応じた学びが得られるように工夫を加えたもので、通常クラスは他の参加者との協働する力を、上級クラスは課題発見能力を、アドバンスクラスはマネジメント能力を養成できるようにそれぞれの役割を明確にして事業を実施した。

4 期待される効果

本事業は、前半部分の法人ボランティア養成講座において、児童理解やリーダーについて学び、後半部分で実際に4年生から6年生の児童を迎えて、企画・運営をする形であることから、学んだことを実践的に身に付ける事ができると考えられる。また、内子町のフィールドワーク等を通して学んだ地域の伝承文化を活動の中で小学生に伝える事ができると考えられる。

5 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
国立大学法人 愛媛大学

6 後 援 [後援] 愛媛県教育委員会 西予市教育委員会 大洲市教育委員会
[協力] 西予市野村町惣川「土居家」

7 期 日 平成30年8月20日(月)～25日(土)
※大学生を対象とした参加者講習会を7月26日(木)に実施
※子どもむかし生活体験村は8月22日(水)～25日(土)に実施

8 場 所 国立大洲青少年交流の家 20日～21日、24日～25日
西予市野村町惣川「土居家」 21日～24日

9 参加人数 大学生14名 (募集人数15名)
[子どもむかし生活体験村 小学校4～6年生20名 (募集人数20名)]

10 講 師 上田 謙 氏 (大洲市立長浜小学校教諭)
小野 翠 氏 (内子町八日市・護国町町並保存センター学芸員)
大本 敬久 氏 (愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員)
西予市野村町惣川地区の方々
山崎 哲司 氏 (愛媛大学教授)
日野 克博 氏 (愛媛大学准教授)
高橋 平徳 氏 (愛媛大学講師)
国立大洲青少年交流の家 職員

11 日 程

7/26 (木)	16:30											17:30		18:30	
	(説明) 青少年教育施設におけるボランティア活動①											(講義) 青少年教育施設の現状と運営			
8/20 (月)	9:30 10:00		12:00 13:00			15:30		16:30		17:30 19:00		20:30 22:00			
	受付	開講式	(講義・演習) ボランティア活動の技術①	昼食	(講義・演習) 安全管理① ※竹食器・うちわ作り	(講義) ボランティア活動の意義	(講義) 青少年教育①	夕食 入浴	(講義・演習) 青少年教育② 役割分担	情報交換会	就寝				
8/21 (火)	9:00		11:00 12:30 13:30		14:30		16:30		17:30 19:30		22:00				
	バス移動 内子町へ	(講義・演習) ボランティア活動の技術② ※内子町フィールドワーク	バス移動 土居家へ	昼食	(演習) ボランティア活動の技術③	(講義・演習) 安全管理② ※現地踏査	(説明) 青少年教育におけるボランティア活動②	夕食 入浴	プログラム計画・運営準備		就寝				
8/22 (水)	8:30		10:30		12:00 13:00		14:30		17:30 19:30		21:00 22:00				
	子どもむかし生活体験村 運営準備	開村式	仲間づくり ゲーム	昼食	愛媛の民俗文化について	竹食器・竹箸づくり 竹の遊び道具づくり	夕食 入浴	目標づくり リーダーズプログラム①	打合せ 企画会	就寝					
8/23 (木)	9:00		12:00 13:00		18:00 20:00		21:00 22:00								
	リーダーズプログラム②		昼食	うちわづくり		夕食 入浴	かるた大会	打合せ 企画会	就寝						
8/24 (金)	9:00		12:00 13:00		15:00 15:15		17:00		17:30 19:30		20:30 22:00				
	うどんづくり		昼食	土居家 清掃・片付け	土居家 退家式	バス移動 交流の家へ	片付け 部屋入り	夕食 入浴	思い出 発表準備	ふりかえり	就寝				
8/25 (土)	9:00 10:00		11:00 12:00												
	思い出 発表 準備	閉村式 思い出発表	ふりかえり 閉講式	大学生解散											

※太字は法人ボランティア養成講座部分

12 活動内容

〈開講前【7月26日(木)】〉愛媛大学

「参加者講習会」(16:30~18:30)

講師：山崎 哲司 氏(愛媛大学教授)

国立大洲青少年交流の家 職員

本事業に応募した大学生を対象とした参加者講習会を愛媛大学にて開催した。講習会では、初めに当所の担当者が、本事業の概要やねらいについて紹介した。続いて過年度参加者から、活動報告のプレゼンが行われた。また、当所の職員が法人ボランティア制度についての説明を行い、最後に愛媛大学の山崎氏から参加者に対し、望ましい参加態度についての講話があった。

〈第1日【8月20日(月)】〉交流の家

「ボランティア活動の技術①」(10:30~12:00)

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

大学生参加者の緊張をほぐし、また3日目から始まる「子どもむかし生活体験村」で最初に行われる「なかまづくりゲーム」での指導方法を学んでもらうため、グループワークゲームを実施した。最後に振り返りとしてゲームの目的と注意点が紹介された。



「安全管理①」(13:00~15:30)

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

大学生参加者は、小学生参加者に竹細工を指導する立場となるため、実際にうちわと竹食器を作成した。うちわづくりを行い、KYT(危険予知トレーニング)を受けた後、竹食器作りを行った。小刀や鉋などの刃物を使用するため、より細かに作業手順と怪我をさせないための注意点が職員から伝えられた。参加者はリスクマネジメントの考え方を学ぶとともに、作成の手順やコツについて学ぶことができた。



「ボランティア活動の意義」(15:30~16:30)

講師：上田 謙 氏(大洲市立長浜小学校教諭)

小学生との生活体験を控えて、小学生への接し方とグループのルール作りや目標作りの手法について、上田氏から講義いただいた。上田氏は企画指導専門職を経験しており、リーダー村についても担当者であったため熟知している。

講義の中で、この事業は子どもたちにとって非常に大切な思い出になることについて、以前のリーダー村の経験を元に伝えられた。また、子どもたちとかがわる際のポイントについても具体的に学ぶことができた。



「青少年教育①・②」

(16:30~20:30) ※夕食・入浴をはさむ

講師：日野 克博 氏(愛媛大学准教授)

山崎 哲司 氏(愛媛大学教授)

日野氏からは、この事業は地域に根ざしたリーダーの育成がねらいであることを伝えられ、続いてリーダーとリーダーシップの定義やリーダーの機能といった概念の説明から、上手なほめ方やしかり



方といった具体的な説明があった。

山崎氏からは、前半の学習を活かして、後半の「リーダー」として役割を担う、実践的学習の場であることを話され、仲間や手助けをしてくれる人達と協同して深い学びをしようと伝えられた。

役割分担について、3年目のアドバンスクラスのリーダーが司会となり、それぞれの役割を決め、活動について、見通しをもった。

〈第2日【8月21日（火）】交流の家・内子町『町並み保存地区』・西予市野村町惣川『土居家』 「ボランティア活動の技術②」（9：00～11：00）

講師：小野 翠 氏（内子町八日市・護国町町並保存センター学芸員）

子どもむかし生活体験村で過ごす「土居家」は西予市の重要文化財である。また、事業4日目の夜にナイトハイクで使用する和蠟燭は、内子町で生産されているものである。内子町の和蠟燭で財をなした上芳我家は国の重要文化財に指定されており、事業に向けて伝統建築と和蠟燭について参加者に理解を深めて貰うため、内子町でのフィールドワークを行った。大森和蠟燭店を見学では、和蠟燭職人から普段使っている蠟燭（洋蠟燭）と和蠟燭との違いや和蠟燭の良さについて学んだ。「上芳我家」では、小野氏の案内で伝統的家屋の特徴について見て回り、資料館で内子と和蠟燭の関わりについて詳しく説明を受けた。



「ボランティアの技術③・安全管理②・青少年教育におけるボランティア活動②」（13：30～17：30）

バスで惣川に移動し、「リーダーズプログラム①」の検討に入った。現地踏査では、約2キロの道のりを大学生リーダーが小学生を徒歩で引率する形になるため、実際に歩いてコースを確認するとともに、神社境内や親水公園での危険個所の確認を行った。実際に川に入り、川の流れや深さなども体感した。途中、入浴場所である「野村少年自然の家」へも立ち寄り、村内の位置関係を全員で確認した。



土居家に戻った後、現地踏査の結果を踏まえてプログラムの内容について、大学生リーダーが意見を出し合った。アドバンスクラスのリーダーがアドバイスをする形で話し合いが進んだ。

「プログラム計画・運営準備」（19：30～22：00）

翌日から始まる「子どもむかし生活体験村」の「村の掟づくり」が行われた。この掟は起床後のつどいや、食事の度に全員で唱和するものである。生活班ごとに分かれたリーダーで話し合った意見を全体で集約し、5つの掟を定めた。また、役割や準備物の確認を行い、振り返りを行った。



〈第3日【8月22日（水）】西予市野村町惣川『土居家』

『子どもむかし生活体験村』運営準備・開村式・仲間づくりゲーム」（8：30～12：00）

役割分担と小学生を出迎えた後の流れについて確認を行った。最初の活動である「なにかまづくりゲーム」は、緊張した初対面の小学生を安心させる重要な時間であるので、担当リーダーを中心に入念なリハーサルが行われた。はっきりしない天気であったため、晴天時、雨天時それぞれの内容を考え、準備を行った。バスで到着した少し



緊張した面持ちの小学生を、大学生は努めて笑顔で出迎えた。子どもむかし生活体験村への参加にあたって、「兄弟や友人との参加不可」というルールを設けている。これは新しい人間関係を様々な活動や共同生活をとおして築いてもらうことで、コミュニケーション能力の向上を狙っているからである。実施した「なかまづくりゲーム」は、初日の活動で大学生リーダーが経験したアイスブレイクを担当リーダーが自分たちなりにアレンジしたもので、活動が進むにつれて全員に自然な笑顔が広がった。子どもたちにとってよいアイスブレイクとなった。

「愛媛の民俗文化について」(13:00~14:30)

講師：大本 敬久 氏(愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員)

西予市の重要文化財である「土居家」は、伊予と土佐を結ぶ街道の宿場町として栄えた惣川の庄屋屋敷として文政10年(1827年)に建築されたと伝えられている。傷みの激しかったこの屋敷は平成10年に現在の形に修復され、西予市の重要文化財に指定された。大本氏から土居家の建築的特徴について説明をうけた。屋敷内を巡りながらその特徴を理解することで、参加者はなお一層、ここで生活体験することの重みを再認識したようであった。



「竹食器・竹箸づくり、竹の遊び道具づくり」(14:30~17:30)

講師：西予市野村町惣川地区の方々

大学生リーダーが小学生に伝える伝承文化の一つに竹細工がある。地元惣川地区の方々に指導いただき、土居家前の広場で竹食器を作成した。この竹の器と箸は、後の活動で流しそうめんやうどんを食べるためのものである。大学生リーダーは2日目の安全管理講習で自分たちの竹食器を作成して、作業の手順と怪我をしない道具の使い方を確認しており、担当班の小学生をそれぞれが指導した。また、この時間に惣川地区の方々に各班一つずつ作っていただいた竹馬は、空き時間に大学生リーダーと小学生参加者の交流を促進する大切なものとなった。



「目標づくり」(19:30~20:00)

班ごとに目標の作成に取り掛かった。村の掟は小学生参加者と出会う前に大学生リーダーが決めているが、班ごとの目標は班のメンバーが揃った後に決めている。小学生から言葉を引き出して目標を書き出した。



「リーダーズプログラム①」(20:00~21:00)

次の日の晩は台風接近のため、間違いなく雨が降る予報であったので前倒してナイトハイクを行った。提灯に入っているのは、2日目のフィールドワークで訪れた内子の和蠟燭である。心もとない明かりを頼りに、各班は夜の惣川を探索した。後半小雨が降ることがあったが、土居家に戻ると、ライトアップされた四国最大級の茅葺屋根が参加者を出迎えた。



〈第4日【8月23日(木)】〉西予市野村町惣川『土居家』・野村少年自然の家

「リーダーズプログラム②」(9:00~12:00)

本来の予定では、午前中にうちわづくり、午後から「フィールドワーク」と「むかしあそび」、「川

遊び」を計画していたが、夕方から暴風雨となる予報であったため、午前と午後を入れ替えた。また、川遊びも雨が降った影響で水量が多くなっていること、流速が速くなっていることから、中止を決断した。それに伴い、「フィールドワーク」を野村少年自然の家で行えるレクリエーションに換え、神社で行う予定であった「むかしあそび」を土居家の広間でもできるものに切り替えた。



野村少年自然の家では、レクリエーションやミニ運動会をして楽しんだ。大縄跳びやリレーなどを2チームに分かれ白熱した。土居家に帰ってからは、けん玉、コマ回し、ゴム跳び、かるた、おはじきなど、室内でできる「むかしあそび」コーナーを設置し、各班で順に巡っていった。

「うちわづくり」等（13：00～18：00）

大学生リーダーがうちわの作り方について指導した。ここで作るうちわは熱中症対策としても大切だが、共同生活が終わった後に持ち帰ることができる数少ないお土産の一つである。班の仲間と協力してうちわづくりを進めていった。作業しながらも班で話も弾んできており、どンドンと打ち解けていく様子がみられた。また、時間にも余裕ができたので、広い和室でゆっくりしたり、午前中に引き続き、「むかしあそび」をしたりして過ごすことができた。



「かるた大会」（20：00～21：00）

前日に前倒ししたナイトハイクの時間帯で、学年別の「かるた大会」を行った。班対抗ともあって、皆が真剣にかるたをとろうとする姿が見られた。



〈第5日【8月24日（金）】〉西予市野村町惣川『土居家』・野村少年自然の家・交流の家

「うどんづくり」（9：00～12：00）

講師：西予市野村町惣川地区の方々

野村少年自然の家の食堂を利用してうどんづくりを行った。惣川地区の方々に指導いただいて、うどんづくりが進んだ。うどんづくりに使われた小麦粉は、講師を務めた方の田畑で栽培され、このうどんづくりのために製粉されたものであった。コシの強いうどんを作るため、小学生と大学生が協力してうどん作りに励んでいた。



「土居家清掃・片付け・退家式」（13：00～15：15）

大学生が3泊4日、小学生が2泊3日を過ごした土居家を、荷物の移動をしながら清掃を行った。予定よりも早めに片付けが進んだため、参加者は土居家の庭でむかしあそびを楽しんだ。お世話になった土居家の人々にお礼の挨拶をし、集合写真を撮影した後に土居家を後にした。



「思い出発表準備」（19：30～20：30）

交流の家に帰り、思い出発表の準備に取り掛かった。平成26年度より日程を1日延長し、この思い出発表が行われている。それまでは惣川で小学生を大学生リーダーが見送る形であったが、どのような生活を送ったのか小学生の保護者にも知ってもらい、また参加者にもこれまでの活動をふりかえることで体験活動の効果を高めてほしいとの願いもあ



り、以来この形をとっている。各班で発表する活動を選び、その活動について発表する小学生の指導を大学生リーダーが行った。

「ふりかえり」(20:30~22:00)

講師：山崎 哲司 氏(愛媛大学教授)、国立大洲青少年交流の家 職員

期間中、大学生リーダーは毎日予定されたプログラムを終えると愛媛大学職員、交流の家職員とのふりかえりを行っていた。この日が最後のふりかえりとなる。山崎先生から気持ちの浮き沈みがどのようにあったのか問いかけがあり、それぞれが自分自身の5日間の活動を振り返って1枚のワークシートにまとめた。

〈第6日【8月25日(土)】〉交流の家

「思い出発表準備」(9:00~10:00)

思い出発表前最後のリハーサルを行った。小学生にとっては4日ぶりに会う保護者への発表ということもあり、前日の練習よりは緊張の色が濃いように見えた。大学生リーダーが最後の声掛けをし、託すような眼差しを送って小学生の元から離れた。

「思い出発表・閉村式・ふりかえり・閉講式」(10:00~12:00)

担当の大学生リーダーが司会を務め、思い出発表が始まった。前方から小学生参加者が班ごとに席から立って思い出を発表し、部屋の中央に座った保護者がそれを聞き、後方で大学生リーダーが見守るといった形で実施した。司会の大学生リーダーが閉村式を締めくくろうとした時、小学生から大学生リーダーへのサプライズが行われた。前日夜に大学生がふりかえりを行っている間に練習した歌と感謝の手紙が大学生に送られ、予期せぬ仕掛けに大学生リーダーだけでなく保護者の涙も誘い、4日間の共同生活が締めくくられた。



1.3 参加者の声

参加者の事後アンケートの結果

【大学生】

*満足：100.0% *やや満足：0.0% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- 昔の生活を実際に経験することによって、子どもたちは昔の暮らしの大変さや苦勞を感じるとともに、楽しさや工夫点を見出すことができていた。それらを踏まえて、今後の生活をしていく中で活用したり、今までの人々への感謝の気持ちを感じたりしてほしいと思う。自分自身も教員採用試験に合格し、クラスのリーダーとして、子どもたちとともに、子どもたちの思いを大切にしながら、目標達成を目指したい。
- 私はどちらかというリーダーをするような積極的なタイプではなかったが、このリーダー村の体験を通して小学生を引っ張っていく力や人前に出る力がついてきたと思う。小学生を支える立場だという自覚が子どもたちと会った時から徐々にでてきたからだと思う。
- 子どもと生活する中で大人の私がしっかりしなければならないというリーダーシップや自らが企画進行する力が育まれた。子どもの成長に毎日感動して、また、子どもの成長が見てみたいという気持ちで過ごした。

【小学生】

*満足 100.0% *やや満足：0.0% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- たくさんの昔の活動ができたのでよかった。(10歳・男子)
- 大学生は優しいし、いろいろ気にかけてくれてよかった。(10歳・女子)
- 友達だけの集団とは違って、初めての人ばかりなのでとてもいいと思った。(12歳・男子)

- 最初は不安だったけれど、いろいろな活動で友達が増えていった。(12歳・女子)
- 初めてのことで、初めての人とでも、自分で勇気をだせるようになった。(11歳男子)

【小学生保護者】 ※実施3ヶ月後のアンケート調査への回答より

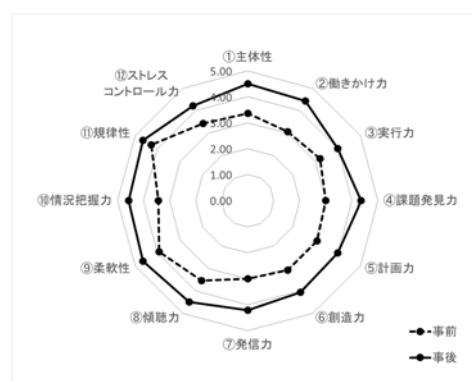
- 「友達ができた」とうれしそうに話していた。この事業で初めて会って短い期間でもともに過ごす中で友達と言える程、楽しい時間を過ごせたようである。
- 外で遊ぶことをあまりしない今の子どもたちであるが、このような機会がもっとあれば遊び方を知り、体を動かしたり、頭を使ったりすることができるようになると思う。
- 親や学校の先生という、いつもの保護者でない人達の中で、自分で居場所を作れたという気持ちが強くもてたことで、自己肯定感が高まったように感じる。
- 体験村で活動から帰ってから、ずいぶんと楽しかったことを話してくれた。小学生でいる間に家族で自然体験などをする機会をもてたらよいと思っている。ますます外での活動が好きになってくれたことをうれしく思う。

14 成果と課題

【成果1】大学生に社会人基礎力が身に付いたこと

事業前と事業後に「社会人基礎力」の測定を行った。どの学生も押し並べて数値が向上していた。特に②の「働きかけ力」④の「課題発見力」⑩の「状況把握力」の伸びが目立っている。この結果は、本事業が指導者等養成研修事業として有効であることを示している。

事業名でもあるように、学んだことを子どもにどのように伝えるか、大学生が試行錯誤し、常にリフレクションしながら身に付けていったのではないかと考える。



【成果2】参加した小学生にたくましが身に付いたこと

本事業での体験が、小学生にどのような変化をもたらせたのかを調査するために、子どもむかし生活体験村に参加した小学生に対して「IKR (生きる力) 評定用紙 (簡易版)」による調査を事業の前後に実施した。ほぼ全て項目で向上しており、向上に有意差が見られ、特に、「心理的社会能力」の向上に有意差が見られた。

【課題1】スタッフの充実

所外での事業運営とあって、必要物品の運搬や会場づくり等、移動の際には、人手が必要となる。しかしながら、大学カヌーの指導や別事業の準備等のため、人手の確保が難しくなっている。日程調整等検討していきたい。

【課題2】活動場所の検討

現在、事業の舞台である野村町惣川や土居家は自然豊かな土地でありながら、文化的価値の高い建物で生活できるとあって、とても魅力的な活動場所である。惣川地区の方々も非常に協力的であり、事業に対しても理解してもらっている。しかしながら、入浴施設が存続するかにかかっており、存続しなければ場所の検討が必要となる。また、来年度より大学生の活動を1日増やし、自然体験活動を充実する計画を立てようとしている。自然体験の場、文化を学ぶ場が共存する場所を今後模索しておく必要がある。

(担当：企画指導専門職 清水大輔)